

プログラム名 (40字以内)	芸術の都フィレンツェで文化財保護を学ぶ		
団体名/所属	大学院人文社会系研究科		
活動区分	フィールドワーク体験活動	希望する選考方法	書類審査のみ
募集人数	5人	選考対象	大学院学生を含む
活動方法	現地活動のみ		
参加者に求めるもの	伊語能力は不問(あればなおよい)だが、英語で議論する能力。		
活動期間	2024/9月後半 9日間(行きと帰りの移動日含む)	主な活動予定場所	フィレンツェ大学、ラウレンツィアーナ図書館、国立修復研究所、ウフィツィ美術館等市内諸美術館、サン・ジョヴァンニ洗礼堂等市内諸教会等
プログラム実施の目的	フィレンツェ大学文学部・建築学部との合同ワークショップ、ラウレンツィアーナ図書館での世界遺産登録の貴重書閲覧、教会建築や美術工芸品等の修復現場見学を通じ、文化財保護の精神と実践を学ぶ。		
具体的な内容(800字程度)	<p>東京大学とフィレンツェ大学は、これまで「東京大学フィレンツェ研究教育センター」(1999-2006年度)の活動等を通じ、長年関係を培ってきました。現在は、2024年に予定される連携協定の再締結にむけ、各種共同プロジェクトを再び活性化させているところです。</p> <p>今回の体験活動においては、歴史と芸術の街フィレンツェは、都市そのものが文化財であるとも言え、その世界的に貴重な文化財をめぐる諸問題を、現地の研究者や学生とともに学びます。中でもその保全保護は喫緊の課題であり、美術館・博物館に収蔵されている芸術作品や、図書館やアーカイブの貴重書・文書史料、さらには歴史的建造物といった文化財の姿と価値をいかんにして保持し、次代に伝えていくか検討します。</p> <p>現地での活動期間7日間のうち、フィレンツェ大学文学部と建築学部の教員学生と共に文化財関連ワークショップを3日間かけて行い、その合間に市内各地の美術館・博物館や教会等を見学します。あわせて建築物や美術品の修復現場取材し、現場で作業にあたる人々の仕事について、内側から学びます。またフィレンツェ文化の多面性を知るために、科学史、音楽(器楽の発祥)、食文化(近代西洋料理の起源)などのテーマも扱う予定です。</p> <p>フィレンツェ出身の本学教員と上記センター勤務経験のある教員、および西洋美術史の教員等の支援の下、フィレンツェの文化財に関わる専門家たちと密に接することで、密度の高い日程をこなすことで、表層に終わらない貴重な体験を得るでしょう。なお、参加学生には、フィレンツェ大生とも積極的に交流してもらうことになります。</p>		
【総額】参加するための費用	約40万円(為替レートにより変動の可能性あり)		
【内訳】参加するための費用(宿泊費)	6泊7日の宿泊費と滞在費で12万円		
【内訳】参加するための費用(交通費)	航空券24万円		
【内訳】参加するための費用(その他)	エクスカージョン等費用4万円(郊外エクスカージョン移動費+諸経費、ワークショップ費用)		
奨励金額(予定)	80,000円		
備考	現地で使用する言語は、原則として英語となる。		
活動に関する関係資料のダウンロードサイト	東京大学ニフィレンツェ大学共催シンポジウム(於フィレンツェ大学、2023年9月)の発表要旨集とフライヤー https://1drv.ms/f/s!AoYnlis8Ar72okb_XoLPC8sBZ6FV?e=np063S		
応募団体を紹介するウェブサイト等(団体が応募の場合)	人文社会系研究科 https://www.lu-tokyo.ac.jp/index.html		
この企画に対する担当者 (応募団体の参加の有無)	参加する		